

粕谷和夫の観察日記。フクロウの仲間・トラフズクが渡良瀬遊水地の一角で越冬しているという情報があつたので、行って来ました。その名の通りまるでトラのような模様が腹部にあるためトラフズクと名付けられました。夜行性で、日が落ちると主にネズミ類を捕らえるため活動します。耳のように見える羽角は飾り羽で聴力には関係ありません。

# 紅葉台



# 新聞

第176号

2025年

4月5日

発行人：関谷 孝

## 季節のたよりハナグモとアズマイチゲ 2025年3月

今年(2025)の啓蟄(冬ごもりをしていた虫たちが土の中から出てくる頃)は3月5日~3月19日です。添付の写真は2023年3月16日に八王子・片倉城跡公園で撮ったものです。花はアズマイチゲですが、よく見ると花の中にハナグモ(カニグモの仲間)がいて、そのクモが獲物を捕まえています。



アズマイチゲは代表的なスプリング・エフェメラルです。スプリング・エフェメラルとは、落葉樹の林にはえる山野草の一種、「春の儂さ」の意味です。早春、いち早く地面から顔を出し、花をつけ、落葉樹の葉が繁るまでの短い期間に活動し、夏になると

枯れてしまいます。以下はアズマイチゲの図鑑引用です。「この花が東日本で発見されたことと、1本の茎に1輪だけ咲く花ということから東一華(アズマイチゲ)と呼ばれるようになりました。その後、西日本にも分布していることが判明して、今では北海道から九州までの主に太平洋側にたくさん見られるようになりました。」

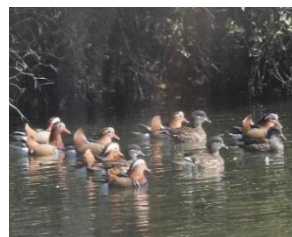
ハナグモは花に吸蜜に来る昆虫を捕らえるために花の上で待ち伏せして獲物を捕まえます。この写真の犠牲者はハナアブの仲間で、アズマイチゲの花の蜜を吸いに来たところを狙われました。これも「春の儂い命」ですね。サクラの咲く前のスプリング・エフェメラルはアズマイチゲの他にカタクリ、イチリンソウ、ジロボウエンゴサク、ムラサキケマン、アマナ、キバナノアマナなど多彩です。

「春は名のみ 風の寒さや 谷のうぐいす 歌は思えど・・・」で始まる「早春賦」の時期ですね。粕谷和夫のブログ「鳥見歩る記」より

<http://kk-kasuya.cocolog-nifty.com/blog/>

## 粕谷和夫の観察日記

八王子、高月にある東京都水道局の浄水場池には毎年カモがやって来て越冬します。マガモ、コガモ、オカヨシガモ等が常連ですが、今年は、オシドリ約20羽の群れも来てくれました。オシドリのオスは目立つ色彩の羽毛のためか、水辺の木陰を好み、開けた水面にはあまり出てきませんが、この日は地味なメスと共に表にでてきました。オシドリのペアは「仲睦まじいオシドリ夫婦」の名の由来となっていますが、今は未だペアが成立していないようです。



今年はツグミが少ないことは何回も書いています。その代わりツグミの仲間のシロハラには時々出会います。

この写真は八王子・栃谷戸公園の一角の林の下で撮ったもの。全身が灰褐色で、その名の通り腹の部分が白っぽい。目の周りの細い黄色のアイリングが目立つ。単独で木の下での暗がりの地面を歩きながら「木の葉返し」を繰り返して昆虫やミミズ、木の実などを食べています。



冬の黄色い花ロウバイが終わると早春の花マンサクにバトンタッチですね。この写真の花はシナマンサクです。2月26日、八王子みなみ野(菖蒲谷戸公園)に数本植えられていました。シナマンサクと日本原産の「マンサク(満作)」はよく似ていますが、「シナマンサク」は花の時期にも枯れ葉が付いていることが見分けるポイントです。公園でこの花の写真撮っているとジョウビタキが出てきました。



2月27日、渡良瀬遊水地の一角で越冬しているトラフズクを見て、その後、谷中湖に行ってみました。

谷中湖には水は殆どなく、干潟のような状態でそこにコウノトリが来て採餌していました。この写真では4羽ですが、全部で7羽いました。千葉県野田市で人工飼育され放鳥されたコウノトリです。近くにはケリ、タゲリもいて賑やかでした。

## 13夜の月 ● 小林松次さんと お別れ会



高尾にある口コミで評判のお店が「13夜の月」。その美味しい料理と落ち着いた雰囲気が高く評価されています。シニアクラブで一緒に小林さんが3月に息子さんたちのいる街に引っ越すという

でお別れ会をしました。小林さんはこの紅葉台新聞で「四国お遍路の旅シリーズ」「日本百名山踏破」「カメラが趣味」等たくさんの投稿をしてくださいました。健脚でカメラをもって旅先で撮影し、作品を紅葉台文化展に出品していました。NHKの番組にも作品が紹介されたこともある腕前です。写真作品をシニアクラブの皆さんに置き土産としていただきました。私達も高齢になると健康面で心配になります。住み慣れた家を後にまた新たなところで元気に過ごしてください。仲良しの曾木さんの喜寿のお祝いもしました。とてもいい時間でした。尚この近くの「カフェわだち」とは経営者が従妹同士です。



紅葉台新聞は、「高尾フモト同盟」のHPに公開されています。高尾の情報や働く人たちが紹介されています。興味を持った方は、覗いてみてください。また、皆様からの情報や投稿もお待ちしています。